

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011. 12. 8

No. 68

## 書くことと考えること



世の中に出ると考えなくてはならないことが沢山出てきます。最初は色々な人に聞きながら対応していくことは出来ますが、最後は自分でしっかり考えて結論を出さなければいけない場面が少なくありません。

何かを考えようとする時、「さあ考えよう」と構えてもなかなか考えが深まらず空回りしてしまいがちです。そんなとき紙に思いつくままメモ書きをしてみたり、**文書にしてみる**と案外考えが深まっていくものです。しかし最初は文章にしてもなかなか考えが深まっていかないことを実感するでしょう。幾度か読み直しているうちに、矛盾する所や、考えの足りない所が見えてくるものです。そうした所を少しずつ手直ししていくうちに次第に完成度が高まってきます。

きちんとした文章にするということが苦手な人も多いと思いますが、そんな人はまず何を書きたいか**キーワードになりそうなことを思いつくまいくつかメモ的に書き出し**ていき、それを眺めている内に**さらにイメージを膨らませていく**と、次第に頭の整理が出来るでしょう。

ものを書くことが苦手な人も、**日頃から文章を書く訓練をしている内にももの考えることがおっくうではなくなる**でしょう。たまには自分で文章を書く訓練を自らに課してみてもはどうでしょうか。

## 大根田勝美著『中卒の組立工、NYの億万長者になる』を読んで

先日本校の図書館より上記本を借りて読みました。著者は戦中伊那市に疎開し中学校を卒業後伊那のオリンパスに就職しました。会社に通いながら上農の定時制を卒業されました。その後東京の本社に転勤し、そこで英語の勉強の必要性を感じ1年間で英語をマスターするという目標を定め大変な努力をし、みごと1年後にかなりの英語力を身につけました。それが会社の上司に認められ、中卒入社の人としては異例のアメリカの駐在員に選ばれ、アメリカで胃カメラのセールスに当たることになりました。

英語力と技術力に裏打ちされ、アメリカでめきめきと売り上げを伸ばして行きましたが、学歴が低いために出世できないことに失望し、フリーの営業マンへの道を選択しました。そして歩合給により億単位の収入を得ました。しかし、成功への嫉妬から歩合を下げられ、その後オリンパスのライバルとなる会社を設立し、顧客の支持を受け成功を重ね資産総額100億円に上る資産家になりました。ニューヨークのマンハッタンにほど近い超高級住宅街に2000坪の宅地を構えるという桁外れの億万長者となっているという「夢物語」を実現したのです。

単に運だけではなくこの人の生き様はきっと皆さんの今後の人生に参考となるものと思います。興味のある人は是非読んでみて下さい。私は2夜で読み終わりました。



## 国立大学 Ⅱ部生2名合格

信州大学経済学部と静岡大学人文学部へ本校より合格しました。国立大学への合格は本校では7年ぶりです。二人の今後の活躍を期待します。他の人も**やれば出来るという思いを共有して欲しい**ものです。